

令和3年度事業報告書

令和3年度は、with コロナを念頭に置き、できる限り本来活動ができるよう意識をしました。昨年度よりも、利用者交流事業を増やし、このような世の中の状況であるからこそ少しでも生活に潤いを持つ機会を職員と考えました。中止していた四季折々のイベントも感染対策を徹底しながら、行うこともでき久しぶりにご利用者の笑顔が見られる時間を共有できました。来館者数も少しずつ戻り始めた矢先に感染爆発が起き、難しい時期もありましたがやり方を工夫すればイベントを実施できるという自信にもつながりました。良いことばかりではなく、相談もコロナに関連した内容や行き場をなくした方の相談や病状憎悪された方の常時来館等の対応に苦慮しましたが、関係機関と連携しながら支援展開を継続してきました。各事業、昨年度に引き続きコロナの影響は受けていますが、全体的には新規契約者数も増え、まさに with コロナという形がセンターでも構築されつつあることを実感しております。以下に令和3年度の各事業ごとの報告をまとめます。

【施設概要】

名 称	社会福祉法人横浜市社会事業協会 横浜市鶴見区精神障害者生活支援センター
所在地	〒230-0062 横浜市鶴見区豊岡町 28-4 ハーモニーとよおか 4階
電 話	045-576-3172 (一般相談回線) 045-576-3174 (申込専用及び緊急対応回線) 045-576-3170 (自立生活アシスタント事業専用回線) 045-576-3171 (横浜市退院サポート事業専用回線)
F A X	045-576-3172
E mail	tsurumi-s.c@ysjk.jp

I. 令和3年度 運営実績報告

① 登録者数及び来館者数

開所日数：308日

登録者数	令和2年度新規登録	男性	28	名	全体	60	名
		女性	32	名			
登録者数	令和3年度新規登録 (登録者総計 1118名)	男性	39	名	全体	85	名
		女性	46	名			
来館者数	本人	男性	3851	名	全体	5902	名
		女性	2051	名			
	家族	全体	407	名	全体	586	名
	ボランティア・その他関係機関等	全体	179	名			
全体合計			6488	名			

コロナ前に比べると、半分以下の来館者数ですが、昨年度に比べると述べ1000名程度増えました。

特に新規の方の定着や、長年来られていなかった方々の再利用等、特徴的な傾向が見られました。

② 各種サービス利用状況

		延べ人数	全体延べ人数
夕食	男性	1813 人	3017 人
	女性	1204 人	
入浴	男性	481 人	594 人
	女性	113 人	
洗濯	男性	380 人	565 人
	女性	185 人	
インター ネット	男性	0 人	0 人
	女性	0 人	

インターネットサービスについては、コロナ感染対策の一環として、1台のPCを複数人が触れることを避けるため中止とし、インターネット情報が必要な方には職員が調べ情報提供を行ってまいりましたが、再開に向けてPCを増やし消毒対策等を徹底してまいります。令和4年度4月に再開予定です。

II. 地域活動支援センター事業 支援状況報告

【援助方法】

電話	男性	1501	件	全体	3990	件
	女性	2489	件			
面接	男性	301	件	全体	587	件
	女性	286	件			
フリースペース対応	男性	497	件	全体	797	件
	女性	300	件			
訪問	男性	67	件	全体	136	件
	女性	69	件			
同行	男性	38	件	全体	116	件
	女性	78	件			
その他	男性	56	件	全体	96	件
	女性	40	件			

昨年度に比べると、電話相談の回数は減りましたが、特定の人物の電話が増え1本の電話が長い方が多く存在しています。これは、標準化により原則お住いの区での相談と電話相談を全センターにかけていた鶴見区の方が複数名いますので、その影響かと思われます。長年、様々なセンターへ電話をかけてこられた方が、一極集中していることで回線が塞がる機会も多く、他のご利用者からの苦情に発展もし

ており課題を感じております。基幹相談支援センター、後見的支援室等との連携を視野に背景に孤独という課題を抱えている方々へ電話相談以外での介入を個別に検討しているところです。

【相談支援内訳】

生活(衣食住)	男性	1094	件	全体	2394	件
	女性	1300	件			
精神的不安定混乱	男性	241	件	全体	653	件
	女性	412	件			
家族関係	男性	117	件	全体	474	件
	女性	357	件			
対人関係	男性	171	件	全体	409	件
	女性	238	件			
金銭管理・経済	男性	367	件	全体	521	件
	女性	154	件			
就労	男性	365	件	全体	756	件
	女性	391	件			
制度・サービス	男性	375	件	全体	880	件
	女性	505	件			
センター利用案内	男性	118	件	全体	228	件
	女性	110	件			
日中活動(余暇含む)	男性	271	件	全体	719	件
	女性	448	件			
医療・健康	男性	486	件	全体	1513	件
	女性	1027	件			
入院・退院支援	男性	51	件	全体	102	件
	女性	51	件			
その他	男性	735	件	全体	1411	件
	女性	676	件			
複数対応		58	回		58	件
ケア会議		49	回		49	件
緊急対応		25	回		25	件

① 相談支援

電話相談、訪問・同行により引き続き介入が必要なケースに支援をしてきました。今年度の特徴としては、主治医が入院必要だと判断しているものの入院に至らない、入院してもすぐに退院させられてしまう方を3名継続支援中です。来館されるも具合が悪いため、他のご利用者からも苦情となり、対応に苦慮していることが継続しています。そのが来館されるためにセンター利用を断念する方もおり、対応については継続検討課題となっています。

② 訪問・同行支援

感染対策を徹底しながら、積極的に訪問・同行に必要時動いてきました。断ったケースは、1件もなく、センターならではのフットワークの良さを発揮してきたと考えています。具体的には、区内で行方不明に数か月になっていた方を発見し、病院に同行したりするなど関係機関と連携しながらセンターとしての役割を意識して活動できたと思います。

③ 家族支援

家族会との連携だけではなく、家族の方々の相談支援を展開しました。区役所や基幹相談支援センターから紹介されたケース等、家族相談を受け関係機関と一緒に訪問するなど、継続して家族支援も行ってきました。

④ 日常生活・福祉サービスに関する情報及びレクリエーションの提供

生活支援センタープログラム(生活情報提供・イベント実施・自主事業等)	25回	参加者総数 157名
------------------------------------	-----	---------------

コロナ対策、人数制限を行った上で、定期的な創作活動として美文字教室、絵手紙、ヨガ教室等を実施してきました。また、四季折々のイベントもソーシャルディスタンスを徹底して行いました。課題としては、地域住民との交流ができるようなイベントの再開です。例年、町内会と共に夏祭りを行ってききましたが、2年連続中止となりました。次年度は、創意工夫して地域交流できるイベントの実施を考え、地域において正しく精神障害が理解できるような機会を提供したいと考えています。

⑤ 関係機関とのネットワーク

ZOOMを用いたオンライン会議を上半期から取り入れ、情報共有等を行ったり自立支援協議会の協議が停滞しないよう3機関で工夫しながら取り組みました。

⑥ 人材育成について

オンライン研修には、できる限り参加をしました。また、相談支援専門員初任者研修にも、2名派遣し、減少した相談支援専門員の数を整えました。

また、同法人の保土ヶ谷区生活支援センターと合同研修を重ね、質の向上に努めました。

コロナ感染症対策を実施している中ではありましたが、実習生4名を受け入れています。

実習性受入れ人数 4名 受け入れ期間 計52日間

⑦ 嘱託医相談

全体		18	人
本人	男性	5	人
	女性	6	人
家族		7	人

実施回数は、84 回となります。予約のない場合は、引き続き職員が嘱託医の先生にケース相談できる時間として活用致しました。結果として、嘱託医の先生方の視点も加わりアセスメントの強化に繋がり本人理解を深めることができました。

III. 自立生活アシスタント事業

今年度は新規獲得に注力してきました。昨年度の実績が延べ 16 件と、目標件数に達することが出来ませんでした。今年度は感染症等の社会情勢を見ながら積極的な介入を心掛けてきました。件数増加の要因で大きいと考えるのは、計画相談支援との連携が大きかったと考えます。計画相談支援、その他の福祉サービスでは対応が困難な案件や、サービス利用に結びつかないが支援を要する方との繋がりづくりに協力して頂いてきました。その他、関係機関からの依頼にも応じ、延べ 27 件、内新規 14 件の獲得に繋げることが出来ました。

前年度と比較し、件数は 14 件と大幅な増加になりました。感染症の影響もあり前年度は新規件数が伸び悩みましたが、社会情勢も変わっていく中で支援の動きも増え始め、依頼件数も増加していったと考えます。次年度も新規開拓には注力しつつ、ケースの循環が課題になってくると感じます。自立生活アシスタントの柔軟性を活かして新規ケースとの関係性構築に力を入れる伴に、利用者との目標設定を明確にしていくことにも重点を置き、終結を見据えた支援を展開していけるようにします。

登録者概要	登録者数	4年3月末時点	13	障害程度別 人数	精神1級	精神2級	精神3級	精神手帳 なし
		3年度新規登録	14	A1	0	0	0	0
		3年度登録抹消	4	A2	0	0	0	0
		4年4月1日現在	23	B1	0	0	0	0
		未登録相談人数	1	B2	1	0	0	0
		他アシ事業所協力人数		愛の手帳 なし	5	13	4	4
	生活状況	①単身	②障害者の み	③同居家族 の高齢化	④その他家族 と同居	⑤単身生活 移行希望	⑥その 他	その他の内容
	18	0	5	1	3	0		
日中活動場所	①就労	②通所	③デイケ ア	④在宅	⑤その 他	その他の内容		
	3	6	3	14	1			

IV. 自立生活援助事業

今年度は3件の対応をしてきました。単身生活者のみですが、2件は病気のため集中的な見守りが必要になり、他サービスに該当しなかったため介入をしてきました。前年度に引き続き、訪問回数に縛りがあ

る為、ご本人のニーズと合致しない課題が自立生活援助においては継続している状況です。

V. 地域移行・地域定着支援事業（横浜市事業及び国事業）

令和3年度も昨年に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により支援可能な時期と不可能な時期がありました。退院支援の依頼は定期的に入ってくるものの、支援に入っていく中で病院から面会や外出の制限が入り支援として動くことができない状況がありました。2か月支援がストップして、その後一斉に支援再開依頼が入る状況など、偏りの目立つ1年となりました。

昨年度の段階で退院後フォローを行っていたケースは整理がなされていたため、退院先の選定が困難で長期化しているケース、新規ケースへの対応が主でした。また、生活訓練施設のチャレンジ事業の利用の為に退院サポート事業を依頼されるケース、61歳、62歳等介護保険の対象にならずまだ数年あるが、退院先の選定に困難さのあるケースもありました。

普及啓発活動ではコロナ禍の影響により上半期は協働活動に入れない時期が続いたが、下半期から再開に向けて打ち合わせを行い、再開させることができました。港北区生活支援センターと交互に港北区内の精神科病院に入院されている患者様向けに社会資源の紹介をする協働活動を病院のプログラムの時間で実施しました。協働活動を行っていた病院の入院病棟が、令和3年3月末でなくなることになり、こちらの協働活動は終了となりました。

鶴見区内の精神科病院へは、病院内に入っている活動が感染拡大のリスクの観点から実施が困難であったため、鶴見区の自立支援協議会の中の精神保健福祉部会で、入院されている患者様向けに区内のグループホームに入居されている方の協力を得てビデオメッセージ動画を編集作成しました。4月以降に院内の職員研修や入院患者様に見て頂く予定となっており、その反応や感想等を踏まえて今後の活動を検討予定となっています。

令和4年度も引き続き、個別支援、協働活動に積極的に取り組んでいきたいと思っております。

	横浜市	国	
	横浜市退院サポート事業 利用者	地域移行支援 利用者	地域定着支援 利用者
支援対象者数	14名 (内 国事業併用2名)	3名	0名
支援継続	10名 (内、国事業併用1名)	1名	
退院者数	5名 (内 国事業併用1名)	1名	
退院後フォロー者数 (R2.4.1時点)	0名 (内、国事業併用0名)		3名
支援終了	11名		

協働活動回数	1回		
協働活動参加者数	22名		

VI. 計画相談支援事業

契約者数総数 84名 年間請求件数 504件

今年度は、相談支援専門員2名の退職と職員の異動により、年度初めにケースの整理を大幅に行いました。新しくできた区内事業所に引継ぎ可能なケースを引継ぎ、センターでは他の事業所では受け入れ困難な重度な方の受け入れをできる体制を再度整えました。今年度の新規は、ほとんどが他の事業所で受け入れ困難な方になります。今年度、新たに2名相談支援専門員初任者研修を修了した職員がいますので、引き続きセンターの体制だからこそ受け入れ可能なケースを精査し、積極的に受け入れを行ってまいります。

VII. その他活動

① 鶴見区自立支援協議会

事務局としての役割を果たすだけでなく、相談部会、権利擁護部会、精神保健福祉部会の3つの部会にそれぞれ合わせて計7名の職員を出席させています。特に精神保健福祉部会では、精神障害者にも対応した包括ケアシステムの構築に向けて協議を重ねました。コロナの影響もあり、今年度に関しては、検討を重ね課題の抽出に留まってしまった感がありますが、検討を重ねる中で見えた課題への具体的な対策について年度末には話し合うことができました。次年度は、地域調査等を行っていく予定です。

② 鶴見区家族会との協働活動

コロナの影響を受けつつも、毎月の定例会に職員を派遣し関係を継続してきました。家族会での講演活動や家族相談を実施しました。次年度は、センター利用登録者の講演を予定しています。

③ 他団体との連携

地域ケアプラザへの出前講演会を企画しましたが、緊急事態宣言もあり次年度に延期となりました。また、小学校との連携も検討し課外学習をセンターで受け入れするため、学校側と協議をしました。次年度に感染対策も実施しながらできることから始めようと意見交換しています。

令和3年度 鶴見区精神障害者生活支援センター収支決算書
(総括版)

自令和3年4月1日 至令和4年3月31日

(単位:円)

科目	予算額	決算額	決算額のうち 法人負担金額	差 額	備 考
I 収入の部					
1 指定管理料収入(当初)	72,830,000	72,830,000		0	
2 指定管理料収入(変更)				0	
3 法人負担金				0	
4 相談支援事業に基いた交通費収入				0	
5 自立支援給付費収入		5,512,965		▲ 5,512,965	
6 食事サービス収入				0	
7 入浴・洗濯・インターネットサービス収入				0	
8 その他の実費収入など		131,700		▲ 131,700	実習生受入れ謝礼金
収入合計	72,830,000	78,474,665		▲ 5,644,665	

69,514,278

II 支出の部						
戻入 精算	1 人件費	62,869,000	59,553,278	▲ 3,315,722	3,315,722	
	所長				▲ 63,585	
	常勤職員				2,944,211	
	非常勤職員	15,500,000	15,842,514	342,514	▲ 342,514	
	アルバイト	4,600,000	3,654,116	▲ 945,884	945,884	
	調理アルバイト	2,800,000	2,143,437	▲ 656,563	656,563	
	嘱託医賃金	968,000	947,520	▲ 20,480	20,480	
	法定福利費	7,500,000	7,116,351	▲ 383,649	383,649	
	退職金給与引当金	1,030,000	2,244,620	1,214,620	▲ 1,214,620	
	福利厚生費	96,000	121,500	25,500	▲ 25,500	はまフレンド
	労務厚生費	175,000	163,846	▲ 11,154	11,154	職員検診
	2 施設管理費	4,840,000	4,336,787	▲ 503,213	503,213	
	光熱水費	2,000,000	1,254,148	▲ 745,852	745,852	
庁舎管理費	2,700,000	3,001,249	301,249	▲ 301,249		
修繕積立金	200,000	200,000	0	0	年度末残高・執行計画別紙	
利用者負担金充当金	▲ 60,000	▲ 118,610	▲ 58,610	58,610	(入浴・洗濯・インターネット収入から)	
3 運営費	4,750,000	5,635,708	850,099	▲ 885,708		
旅費	1,500,000	1,166,691	▲ 333,309	333,309		
消耗品費	800,000	1,598,397	762,788	▲ 798,397		
印刷製本費	165,000	143,289	▲ 21,711	21,711		
修繕費	200,000	9,487	▲ 190,513	190,513	執行状況報告	
通信運搬費	900,000	623,782	▲ 276,218	276,218		
賃借料	375,000	403,546	28,546	▲ 28,546		
備品等購入費	400,000	763,579	363,579	▲ 363,579		
保険料	210,000	174,896	▲ 35,104	35,104		
雑費	200,000	752,041	552,041	▲ 552,041		
4 本部繰入金	371,000	2,319,714	1,948,714	▲ 1,948,714		
食事サービス費の支出				0		
6 その他の実費からの支出				0		
支出合計	72,830,000	71,845,487	▲ 1,020,122	984,513		

75,161,209

III 戻入の部					
人件費戻入精算分		3,315,722			
戻入合計		3,315,722			